



KONICA MINOLTA

コニカミノルタグループ 2012年3月期 第2四半期決算説明会

2011年10月28日

コニカミノルタホールディングス株式会社

代表執行役社長 松崎正年



- **本資料の記載情報**

本資料におきましては、四捨五入による億円単位で表示しております。

- **将来見通しに係わる記述についての注意事項**

本資料で記載されている業績予想及び将来予想は、現時点における事業環境に基づき当社が判断した予想であり、今後の事業環境により実際の業績が異なる場合があることをご承知おき下さい。

本日お伝えしたいメッセージ



KONICA MINOLTA

上半期実績(対公表値)

- ▶ 2Qにおける情報機器事業の大幅な収益回復が牽引し、全社営業利益は公表値を30%上回る156億円で着地。経常利益以降の全ての段階利益でも公表値を超過達成。
- ▶ 2Q営業利益(123億円)は、円高環境の中で概ね前年並みの利益水準を確保。
- ▶ 情報機器事業では震災に起因した部材調達問題も概ね解消し、オフィス、プロダクションプリント分野とも高付加価値のカラー機が想定以上に好調に推移。 オプト事業ではVA-TACフィルムが好調。

通期業績見通し

- ▶ 為替前提は、現下の円高を織り込み「USDドル=78円、ユーロ=105円」に見直す。
- ▶ 円高による換算上の目減り、及び陰りつつあるマクロ景気に伴う需要減退をリスクとして織り込み、通期業績予想を「売上高:7,800億円、営業利益:400億円」に見直す。
- ▶ 未定としていた中間配当は「1株当たり7.5円」を実施。
中間・期末を合わせた年間配当は、前回予想を据置き「1株当たり15円」を予定。

2011年度上半期 全社業績要約



KONICA MINOLTA

[億円]

	11年度	10年度	増減 YoY	11年度	11年度四半期別		QoQ
	1H実績	1H実績		1H公表値	1Q実績	2Q実績	
売上高	3,783	3,918	△ 135	3,860	1,862	1,921	59
営業利益	156	226	△ 70	120	33	123	91
(営業利益率)	4.1%	5.8%		3.1%	1.8%	6.4%	
のれん代償却額	44	43	1	40	22	22	△ 0
のれん代償却前営業利益	200	269	△ 69	160	55	145	90
(のれん代償却前営業利益率)	5.3%	6.9%		4.1%	3.0%	7.6%	
当期純利益	38	86	△ 49	30	△ 1	39	40
(当期純利益率)	1.0%	2.2%		0.8%	-0.1%	2.0%	
為替レート [円]							
USD	79.80	88.94	△ 9.14	80.00	81.74	77.86	△ 3.88
Euro	113.78	113.83	△ 0.05	115.00	117.40	110.15	△ 7.25

2011年度上半期 業績の総括



KONICA MINOLTA

上半期実績(対前年比)

- 売上高: $\Delta 3\%$ (為替影響除く 前年並み)
- 営業利益: $\Delta 31\%$ (為替影響除く $\Delta 22\%$)

2Qは公表値を上回り好調も1Qの減益までは挽回できず

- ▶ 情報機器事業は1Qの震災影響や費用増で減益。
- ▶ オプト事業は、TACフィルムは堅調ながら光ピックアップレンズやレンズユニットが低調に推移。
- ▶ ヘルスケア事業はフィルムの伸び悩みや銀高騰で減益。

2Q実績(対直前期比)

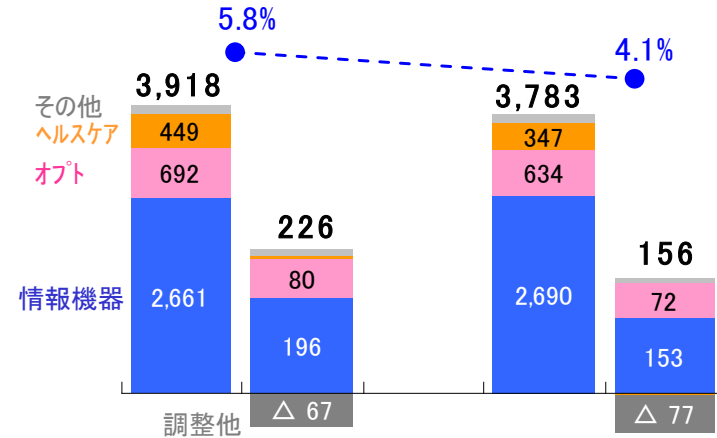
- 売上高: $+3\%$ (為替影響除く $+7\%$)
- 営業利益: $+275\%$ (為替影響除く $+345\%$)

情報機器事業の好業績が全社を牽引

- ▶ 情報機器事業は高採算製品の販売増により大幅増益。
- ▶ オプト事業はTACフィルムやHDD用ガラス基板が堅調に推移し増収増益。
- ▶ ヘルスケア事業は新製品販売拡大により増収増益。

◆グループ売上・営業利益(YoY) 【億円】

左:売上高 右:営業利益 一営業利益率

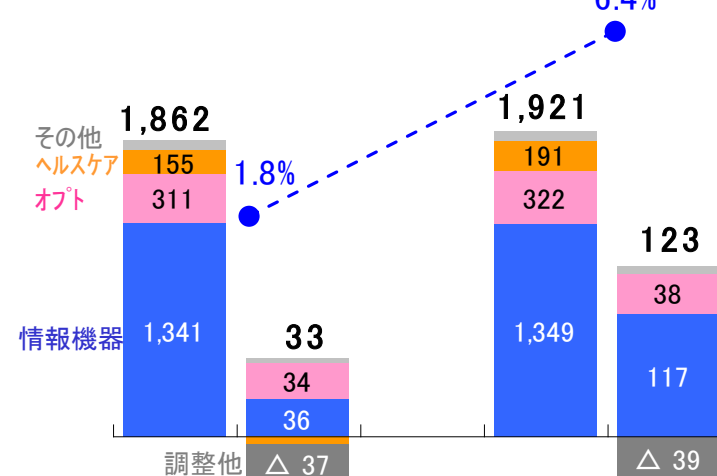


10.1H

11.1H

◆グループ売上・営業利益(QoQ) 【億円】

左:売上高 右:営業利益 一営業利益率



11.1Q

11.2Q

2011年度上半期 セグメント別売上高・営業利益



KONICA MINOLTA

[億円]

売上高	11年度	10年度	増減 YoY	11年度	11年度四半期別		
	1H実績	1H実績		1H公表値	1Q実績	2Q実績	QoQ
情報機器	2,690	2,661	29	2,730	1,341	1,349	8
オプト	634	692	△ 58	640	311	322	11
ヘルスケア※	347	449	△ 103	380	155	191	36
その他事業	79	80	△ 0	80	40	40	0
ホールディングス他	34	37	△ 3	30	15	19	3
グループ計	3,783	3,918	△ 135	3,860	1,862	1,921	59

営業利益	11年度	10年度	増減 YoY	11年度	11年度四半期別		
	1H実績	1H実績		1H公表値	1Q実績	2Q実績	QoQ
情報機器	153	196	△ 43	110	36	117	80
オプト	72	80	△ 8	75	34	38	4
ヘルスケア※	△ 4	6	△ 10	5	△ 5	1	6
その他事業	12	11	1	10	5	7	2
ホールディングス他	△ 77	△ 67	△ 10	△ 80	△ 37	△ 39	△ 2
グループ計	156	226	△ 70	120	33	123	91

※10年度上半期はグラフィック事業を含む(10.3Q以降は情報機器事業に編入)

情報機器事業の概況



KONICA MINOLTA

上半期実績(対前年比)

- 売上高: +1%(為替影響除く +5%)
- 営業利益: $\Delta 22%$ (為替影響除く $\Delta 21%$)

プロダクションプリント分野の伸長により増収

- ▶ オフィス分野: 1Qでの震災影響を受け減収、減益。
- ▶ プロダクションプリント分野: カラー新製品の販売拡大により増収増益。

2Q実績(対直前期比)

- 売上高: +1%(為替影響除く +5%)
- 営業利益: +221%(為替影響除く+275%)

販売数量増と製品ミックスの改善などにより大幅増益

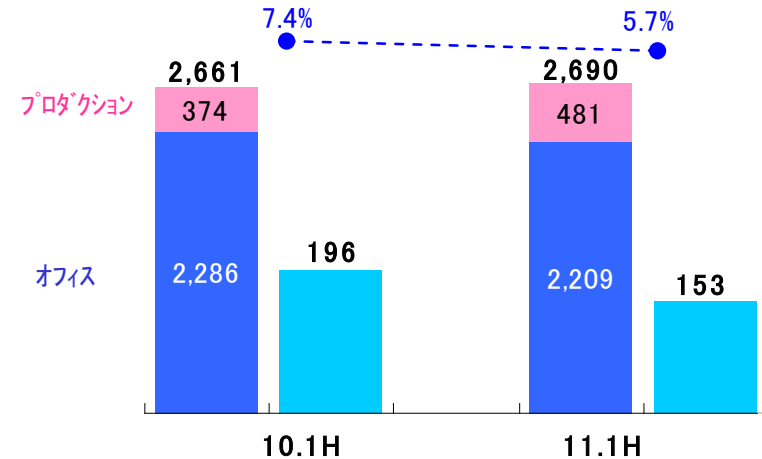
- ▶ 生産正常化に伴い、1Qでの需給ミスマッチは概ね解消。高付加価値のカラー機販売増により粗利率が向上。
- ▶ 調達も概ね正常化し、コストダウンや製造損益も改善。

- ◆ 前回予想からの変化: オフィス、プロダクションプリントともにカラー製品の想定以上の販売増。

◆売上・営業利益(YoY)

左:売上高 右:営業利益 -営業利益率

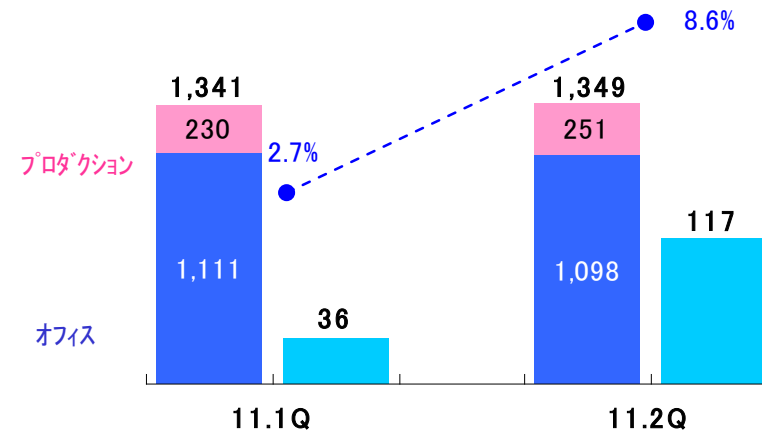
【億円】



◆売上・営業利益(QoQ)

左:売上高 右:営業利益 -営業利益率

【億円】



情報機器事業 販売状況



KONICA MINOLTA

上半期実績(対前年比)

- オフィスMFP販売台数 : +2%
 - プロダクションプリント機販売台数 : +25%
 - ▶ オフィス、プロダクションプリントともにカラー機が好調。
 - ▶ ハード売上も為替影響を除くと+4%と堅調。
- <地域別カラー台数伸長率>

	日本	米国	欧州	その他
オフィス	+4%	+10%	+7%	+2%
プロダクション	+98%	+35%	+77%	+14%

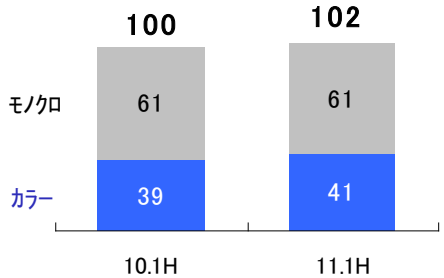
2Q実績(対直前期比)

- オフィスMFP販売台数 : +14%
- プロダクションプリント機販売台数 : +20%
- ▶ オフィスMFP: カラー機(+19%)、モノクロ機(+11%)ともに2桁%の販売増。
- ▶ プロダクションプリント機: カラー機が新製品主体に+24%と牽引し、好調維持。モノクロ機も+17%増。

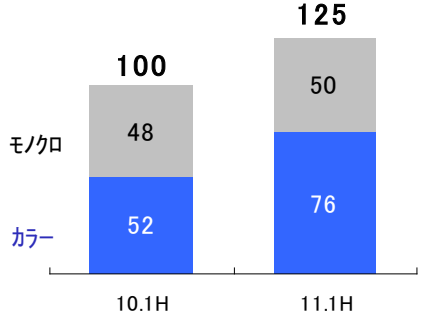
販売台数(YoY)

10.1Hを100とした場合の指数

◆オフィスMFP



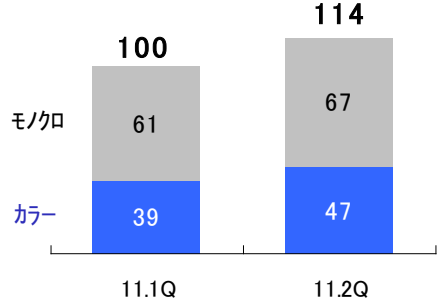
◆プロダクションプリント機



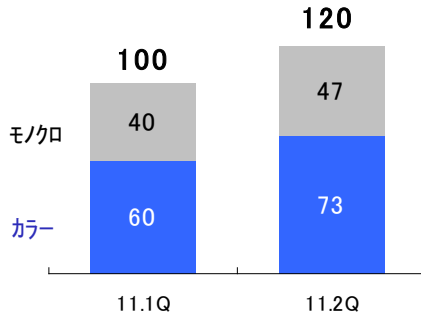
販売台数(QoQ)

11.1Qを100とした場合の指数

◆オフィスMFP



◆プロダクションプリント機



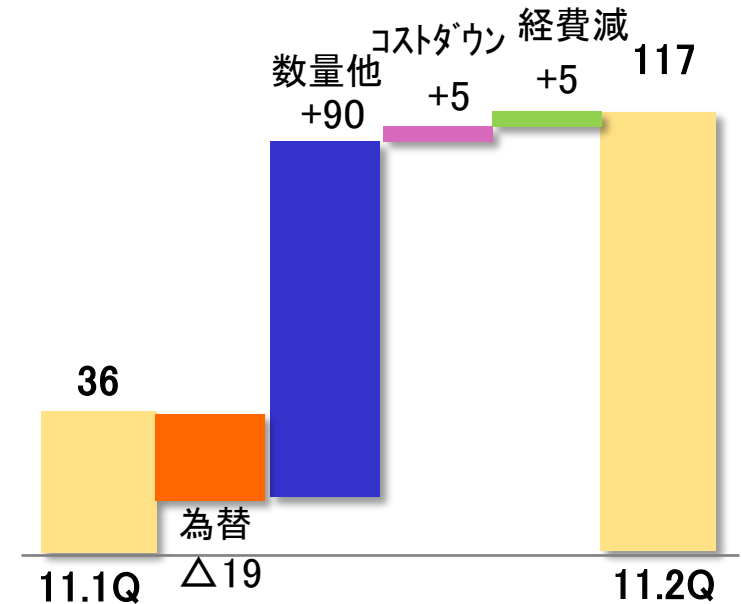
情報機器事業 営業利益増減(対直前期比)



主な増減要因

【億円】

- ▶ **為替影響**：ユーロ安の影響(13億円)を大きく受ける。
- ▶ **数量他**：オフィス・プロダクションともに粗利率の高いカラー機の販売台数増が寄与。
- ▶ **コスト**：供給網の復旧により、2Qよりコストダウン活動を再開。生産数量増も寄与。
- ▶ **経費**：販売増に伴い変動費は増加するも、その他の経費は管理徹底により抑制。



プロダクションプリント機の販売状況



KONICA MINOLTA

カラー機の販売推移

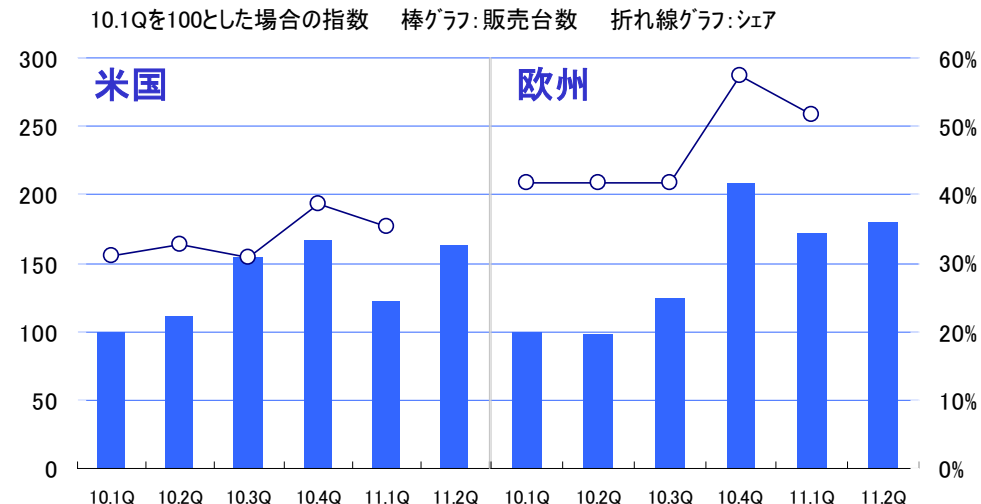
- ▶ 米欧ともにカラー新製品発売以来、販売好調を維持。
- ▶ 専任販売体制の強化により、パイプラインを積み上げ、販売拡大が着実に進む。
- ▶ 2Qシェアは更なるポジション向上を期待。

新興国における販売推移

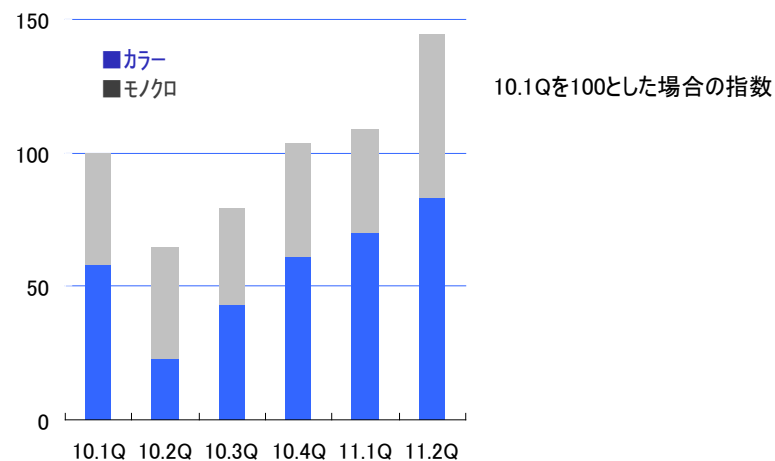
- ▶ 新興国におけるプロダクション機の販売台数は、国内向けを上回り、カラー機の比率も先進国並み。売上金額でも国内に迫るところまで成長。

米欧におけるカラー機の販売台数・シェア

※シェアは当社推定



新興国における販売台数



オプト事業の概況



KONICA MINOLTA

上半期実績(対前年比)

- 売上高: $\Delta 8\%$
- 営業利益: $\Delta 10\%$
- ▶ TACフィルム: VA-TACが牽引し、増収。
- ▶ HDD用ガラス基板: 期中半ばより受注回復するも、為替影響等により減収。
- ▶ 光ピックアップレンズ: BD、DVDともに市況弱く、減収。
- ▶ 携帯用レンズユニット: 数量減少し、減収。

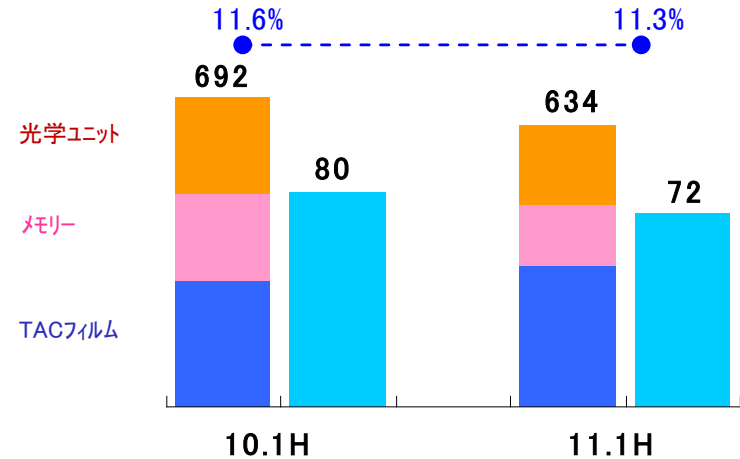
2Q実績(対直前期比)

- 売上高: $+3\%$
- 営業利益: $+11\%$
- ▶ TACフィルム: 2Qより調整が始まるが、VA-TACが堅調に推移し、調整影響を最低限に留める。
- ▶ HDD用ガラス基板: 1Q後半から受注が回復。
- ▶ 光ピックアップレンズ: BDが伸び悩む。
- ▶ レンズユニット: DSCやスマートフォン向けの受注増等により増収。
- ◆ 前回予想からの変化: BD用ピックアップレンズが想定より伸び悩む。

◆売上・営業利益(YoY)

左: 売上高 右: 営業利益 - 営業利益率

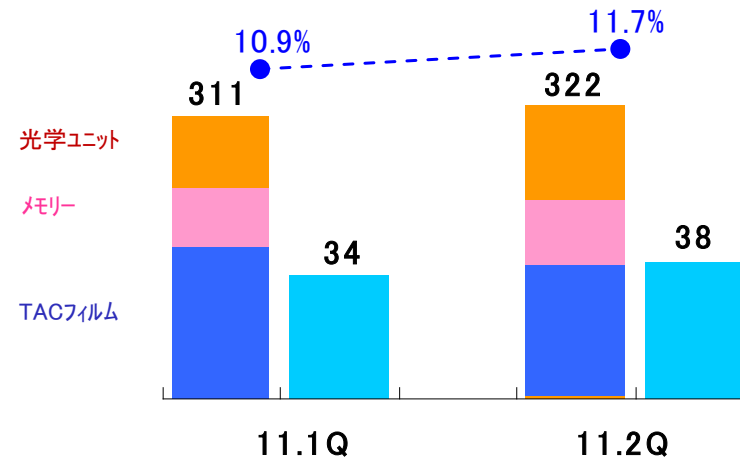
【億円】



◆売上・営業利益(QoQ)

左: 売上高 右: 営業利益 - 営業利益率

【億円】



オプト事業 販売状況



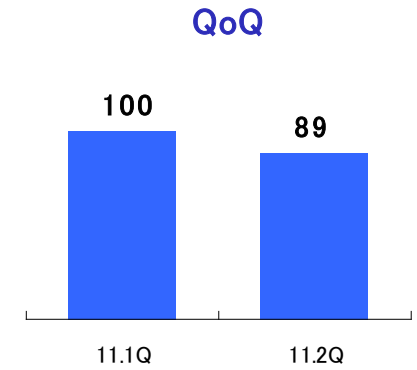
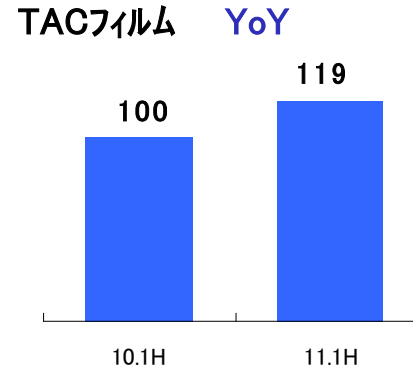
KONICA MINOLTA

TACフィルム

- ▶ YoY: VA-TACが好調に推移。
- ▶ QoQ: 調整が始まり、TAC総量では減少となるが、VA-TACは1Q並みで推移。

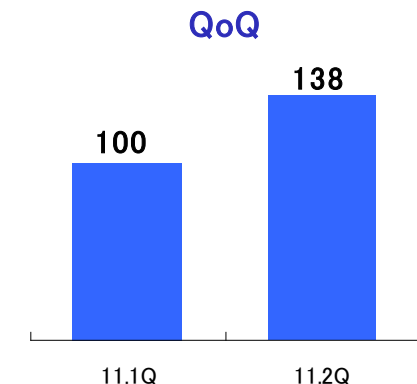
主要製品販売数量

10.1H/11.1Qを100とした場合の指数



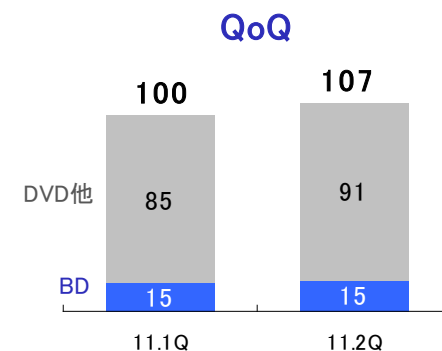
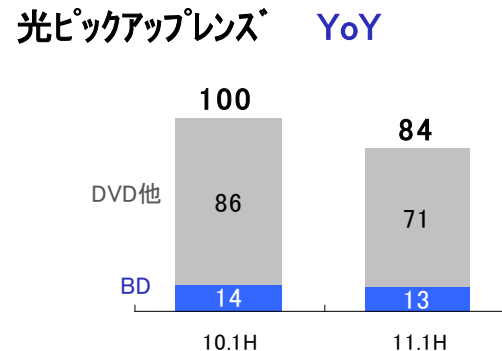
HDD用ガラス基板

- ▶ YoY: 期中より受注状況が回復し、前年並みの数量を確保。
- ▶ QoQ: 当初計画を上回る販売数を達成。



光ピックアップレンズ

- ▶ YoY: BD、DVDともに伸び悩む。
- ▶ QoQ: 市況弱く、特にBD系が伸び悩む。



ヘルスケア事業の概況



KONICA MINOLTA

【億円】

上半期実績(対前年比)

- 売上高: $\Delta 8\%$
- 営業利益: $\Delta 4$ 億円

※旧グラフィック事業除く伸長率

- ▶ デジタル入力機器は新製品が牽引して販売増。
- ▶ フィルム製品の国内など先進国での想定以上の減少となり減収減益。
- ▶ 為替や銀価格高騰の影響も受ける。

2Q実績(対直前期比)

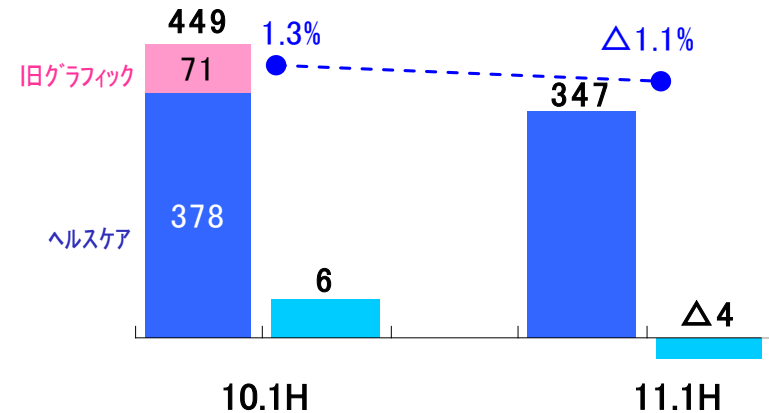
- 売上高: $+23\%$
- 営業利益: 6億円の改善

- ▶ CRやDR新製品の販売拡大により大幅増収。損益も黒字化。

- ◆ 前回予想からの変化: デジタル入力機器、フィルムともに販売物量未達。銀価格高騰も損益に影響。

◆売上・営業利益(YoY)

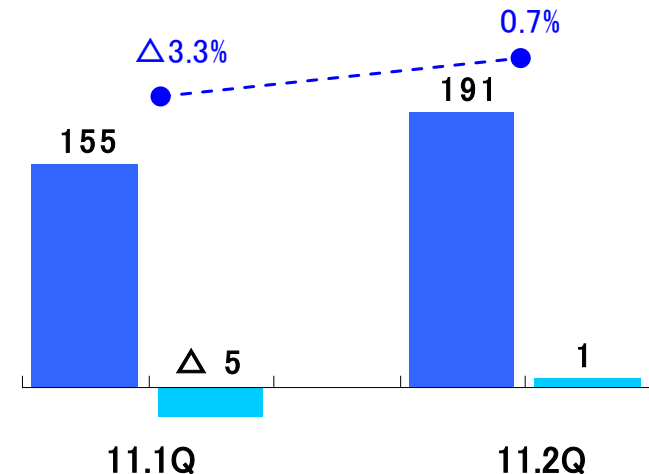
左: 売上高 右: 営業利益 - 営業利益率



◆売上・営業利益(QoQ)

左: 売上高 右: 営業利益 - 営業利益率

【億円】



ヘルスケア事業 販売状況



KONICA MINOLTA

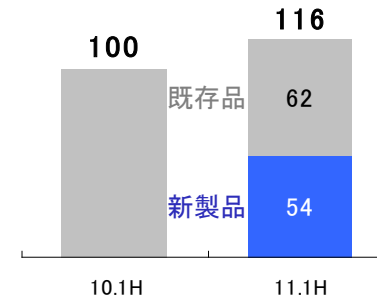
デジタルX線入力機器 (CR・DR)

- ▶ YoY: 新製品が牽引し16%の増。
- ▶ QoQ: 新製品の本格寄与が始まり、2Qは国内主体に販売数量が大幅伸長。

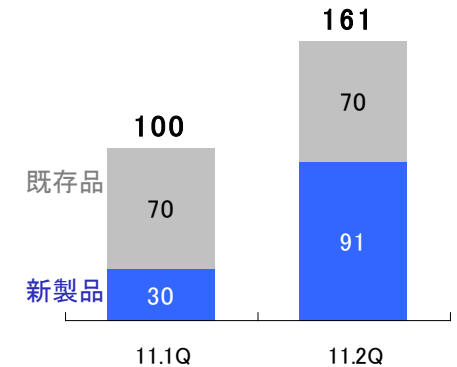
主要製品販売数量

10.1H/11.1Qを100とした場合の指数

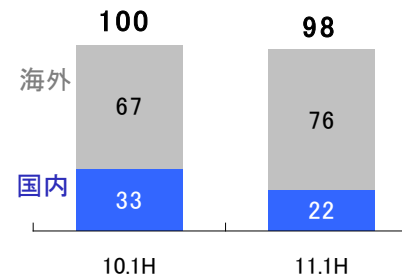
CR・DR YoY



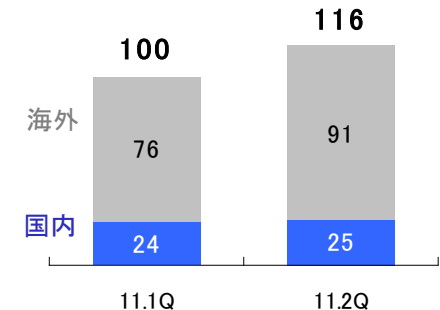
QoQ



Dryフィルム YoY



QoQ



Dryフィルム

- ▶ YoY: 中国中心に新興国で販売増となるが、国内など先進国での販売減により前年並み。
- ▶ QoQ: 新興国向け販売が拡大。

2011年度業績予想 全社業績



KONICA MINOLTA
[億円]

	11年度		増減 YoY	10年度 実績	11年度半期別		増減 HoH
	今回予想	前回予想			1H実績	2H見通し	
売上高	7,800	8,100	△ 300	7,780	3,783	4,017	234
営業利益	400	420	△ 20	400	156	244	88
(営業利益率)	5.1%	5.2%		5.1%	4.1%	6.1%	
のれん代償却額	90	80	10	84	44	46	1
のれん代償却前営業利益	490	500	△ 10	484	200	290	89
(のれん代償却前営業利益率)	6.3%	6.2%		6.2%	5.3%	7.2%	
経常利益	350	390	△ 40	332	116	234	118
当期純利益	190	200	△ 10	259	38	152	115
(当期純利益率)	2.4%	2.5%		3.3%	1.0%	3.8%	

1円変動時の為替感応度(年間)

	売上高	営業利益
US\$:	29億円	4億円
Euro:	14億円	8億円

為替レート [円]	USD		増減	10年度 実績	11年度半期別		増減 HoH
	今回予想	前回予想			1H実績	2H見通し	
USD	78.00	80.00	△ 2.00	85.71	79.80	78.00	△ 1.80
Euro	105.00	115.00	△ 10.00	113.11	113.78	105.00	△ 8.78

※下半期レート ※2Q以降想定レート

設備投資	500	500		430	138	362	
減価償却費	650	650		551	236	414	
研究開発費	780	800		726	368	412	
FCF	80	80		232	160	△ 80	

2011年度業績予想 セグメント別売上高・営業利益



KONICA MINOLTA

	11年度		増減 YoY	10年度 実績	11年度半期別		増減 HoH
	今回予想	前回予想			1H実績	2H見通し	
売上高							[億円]
情報機器	5,500	5,660	△ 160	5,396	2,690	2,810	120
オプト	1,260	1,350	△ 90	1,298	634	626	△ 7
ヘルスケア	790	850	△ 60	850	347	443	97
その他事業	170	170	0	157	79	91	12
ホールディングス他	80	70	10	78	34	46	12
グループ計	7,800	8,100	△ 300	7,780	3,783	4,017	234
営業利益							
情報機器	378	380	△ 2	375	153	225	72
オプト	142	165	△ 23	128	72	70	△ 2
ヘルスケア	6	20	△ 14	2	△ 4	10	14
その他事業	26	25	1	22	12	15	3
ホールディングス他	△ 153	△ 170	17	△ 127	△ 77	△ 76	0
グループ計	400	420	△ 20	400	156	244	88

下半期業績予想見直し： 前回予想からの変化



KONICA MINOLTA

売上高		超円高及び景気減速懸念に伴う需要減退の影響を織り込む。
前回予想	4,240億円	• 為替前提：ドル=80円、ユーロ=115円
為替影響	△100億円	• 為替前提：ドル=78円、ユーロ=105円に見直す
販売減少	△123億円	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器事業： 欧州等での需要鈍化 (約△30億円) オプト事業： 液晶パネル、BD・DVDなど主要製品市況の悪化(約△80億円) ヘルスケア事業： フィルム需要減の加速 (約△25億円)
増減	△223億円	
今回予想	4,017億円	
営業利益		マイナス影響に対して利益回復の施策効果を織り込む。
前回予想	300億円	• 為替前提：ドル=80円、ユーロ=115円
為替影響	△54億円	• 為替前提：ドル=78円、ユーロ=105円に見直す
販売減少	△56億円	• 上記の販売物量減少に伴う利益減を見込む
利益回復	+54億円	<ul style="list-style-type: none"> 経費削減の徹底、生産性改善によるコスト改善 生産体制の見直し、海外移転の加速による固定費削減 国内販売体制の見直しによる固定費削減、など
増減	△56億円	
今回予想	244億円	



KONICA MINOLTA

(空白ページ)

情報機器事業 下半期業績見通し



KONICA MINOLTA

前年比

- 売上高: +3% (為替影響除く +6%)
- 営業利益: +26% (為替影響除く +71%)

上半期比

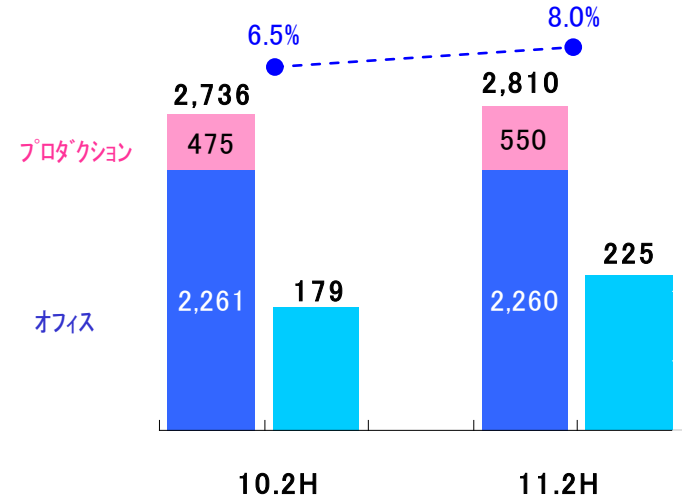
- 売上高: +4% (為替影響除く +7%)
- 営業利益: +47% (為替影響除く +76%)

- ▶ オフィスは、カラー新製品が寄与して増収増益に貢献。
- ▶ プロダクションプリントは上半期の好調なモメンタムを維持して増収増益を牽引。
- ▶ 生産効率化、コストダウン、経費管理を徹底。
- ▶ 本社・販社において粗利コントロールを徹底。

◆ 前回予想からの変化: 景気減速懸念に伴うオフィスMFPの需要鈍化を織り込み、販売台数を欧州中心に見直す。

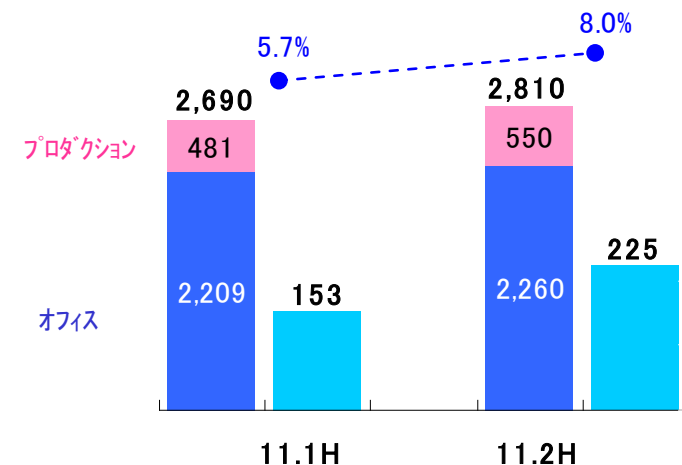
◆ 売上・営業利益 (YoY)

左: 売上高 右: 営業利益 - 営業利益率 【億円】



◆ 売上・営業利益 (HoH)

左: 売上高 右: 営業利益 - 営業利益率 【億円】



情報機器事業 下半期販売見通し



KONICA MINOLTA

前年比

- オフィスMFP販売台数 : +5%
- プロダクションプリント機販売台数 : +30%

上半期比

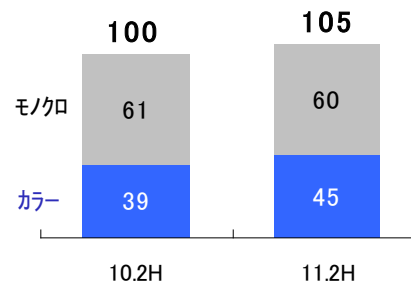
- オフィスMFP販売台数 : +5%
- プロダクションプリント機販売台数 : +20%

- ▶ オフィスは、カラー機の販売増に取り組む。
- ▶ プロダクションプリント機は好調な販売モメンタムを維持し全地域で販売増を目指す。

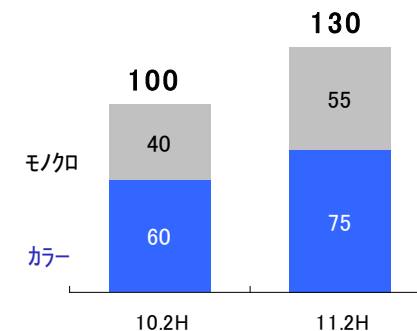
販売台数 (YoY)

10.2Hを100とした場合の指数

◆ オフィスMFP



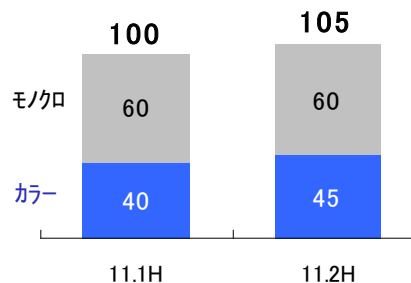
◆ プロダクションプリント機



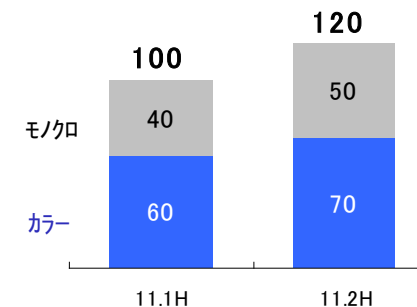
販売台数 (HoH)

11.1Hを100とした場合の指数

◆ オフィスMFP



◆ プロダクションプリント機



オプト事業 下半期業績見通し



KONICA MINOLTA

前年比

- 売上高: +3%
- 営業利益: +46%

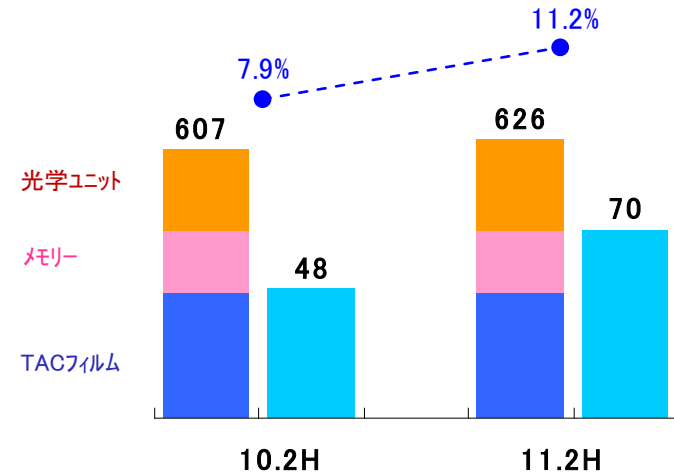
上半期比

- 売上高、営業利益ともに上半期並みの水準を維持。
- ▶ TACフィルムは上半期比で1割以上の需要減少を見込む、競争力の高いVA-TAC、薄膜TACの販売に注力。
- ▶ HDD用ガラス基板および光ピックアップレンズは、需要は伸びず上半期並みの水準確保を見込む。
- ▶ 携帯用レンズユニット・カメラモジュールはスマートフォンなど成長領域での受注拡大に注力。
- ◆ 前回予想からの変化: 景気減速懸念に伴う当事業関連の市況悪化を織り込み、TACフィルム、ピックアップレンズの販売数量を見直す。

◆売上・営業利益(YoY)

【億円】

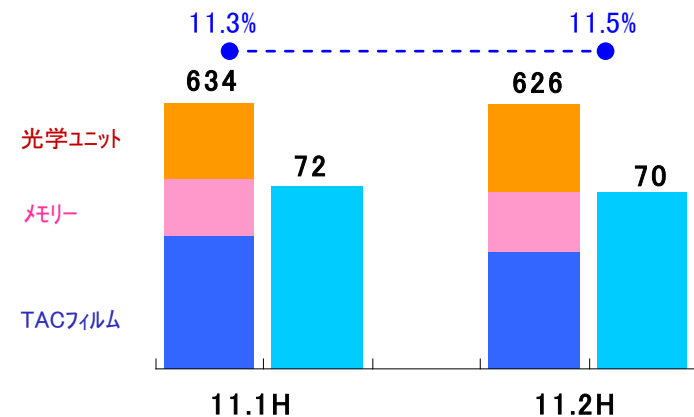
左:売上高 右:営業利益 -営業利益率



◆売上・営業利益(HoH)

【億円】

左:売上高 右:営業利益 -営業利益率



オプト事業 下半期販売見通し



KONICA MINOLTA

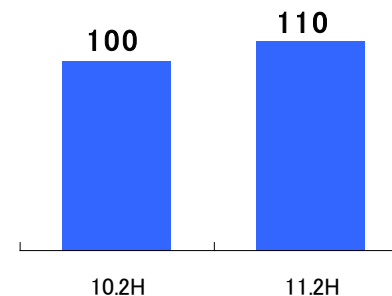
TACフィルム

- YoY: +10%
- HoH: Δ 10%

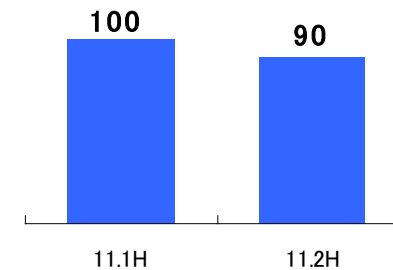
▶ 競争優位の薄膜TACを中心に拡販。

10.2H/11.1Hを100とした場合の指数

TACフィルム YoY



HoH

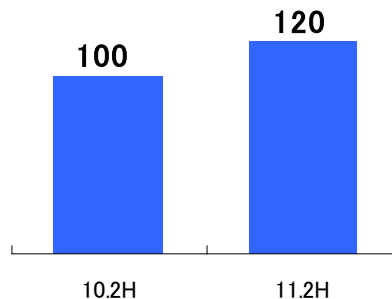


HDD用ガラス基板

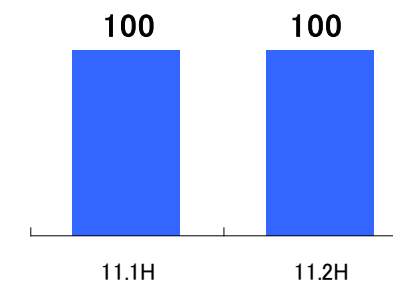
- YoY: +20%
- HoH: 上期並み

▶ 一部調整による需要減を見込むが、ガラス化率の上昇に伴い、上半期並みの数量を維持。

HDD用ガラス基板 YoY



HoH

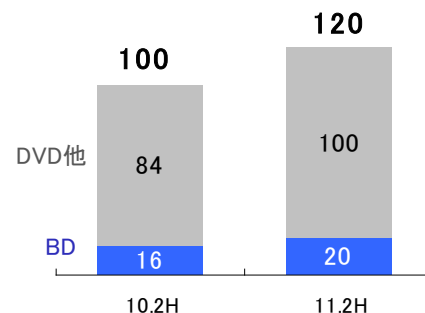


光ピックアップレンズ

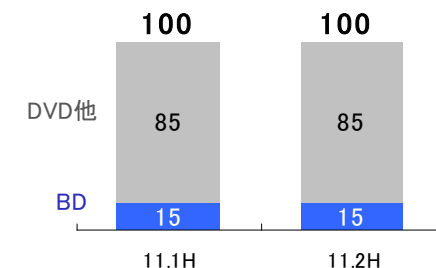
- YoY: +20%
- HoH: 上期並み

▶ BD、DVDともに需要は弱含みの見込み。

光ピックアップレンズ YoY



HoH



ヘルスケア事業 下半期業績見通し



KONICA MINOLTA

前年比

- 売上高: +10%
- 営業利益: 14億円の改善

上半期比

- 売上高: +28%
- 営業利益: 14億円の改善

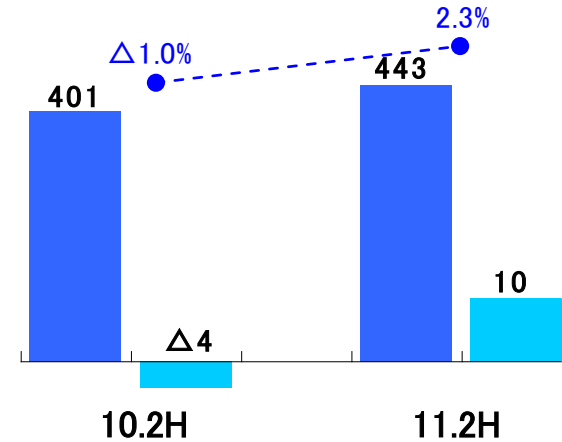
- ▶ デジタル機器品揃え拡充による、病院からクリニックまで幅広いニーズの取り込み。
- ▶ CRのコストダウン取組み強化。
- ▶ 保守サービス、ITサービスの安定的拡充・利益貢献。

- ◆ 前回予想からの変化: フィルム製品は、先進国における需要減の加速および新興国での成長鈍化。銀価格高止まりの影響を織り込む。

◆売上・営業利益(YoY)

左: 売上高 右: 営業利益 - 営業利益率

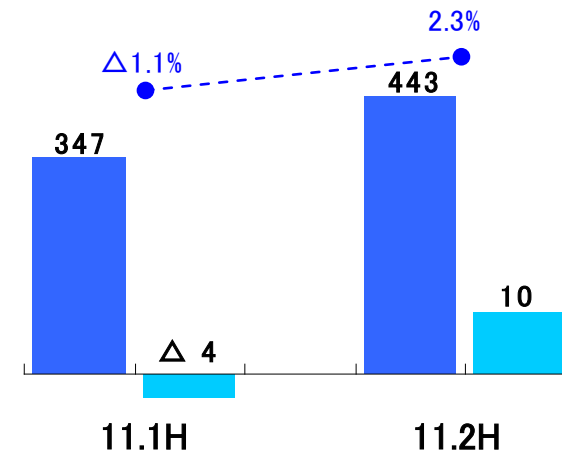
【億円】



◆売上・営業利益(HoH)

左: 売上高 右: 営業利益 - 営業利益率

【億円】



ヘルスケア事業 下半期販売見通し

CR・DR

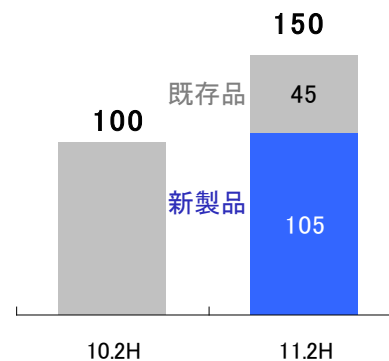
- YoY: +50%
- HoH: +45%

- ▶ CR新製品を海外市場中心に拡販。
- ▶ DR新製品は国内外で販売強化。

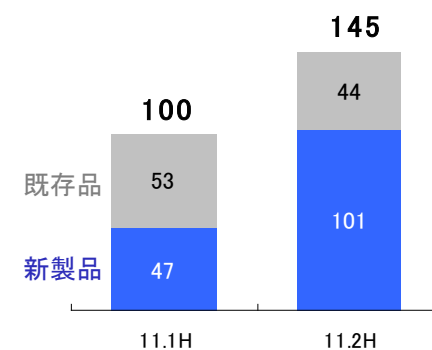
主要製品販売数量

10.2H/11.1Hを100とした場合の指数

CR・DR YoY



HoH

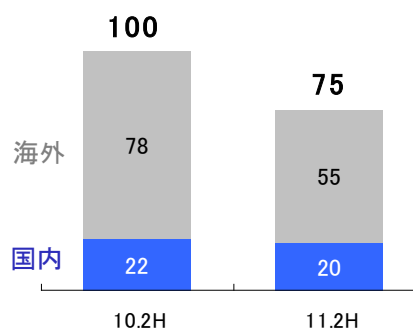


X線用フィルム

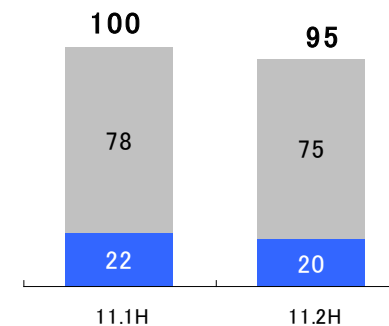
- YoY: Δ 25%
- HoH: Δ 5%

- ▶ 新興国では拡大基調も、国内中心に先進国での需要減少を見込む。

Dryフィルム YoY



HoH



Gプラン2013における成長ドライバーの進捗



情報機器事業

プロダクションプリント

- 「bizhub PRESS」シリーズのカラー新製品により、上期通して好調な販売モメンタム。
- カラー機台数成長(YoY): +33%/1Q、+58%/2Q

中国・アジア・新興国

- 中国売上は上期実績+19%、その他アジアは+18%(ともにYoY、除く為替)

OPS・GMA

- OPSのITサービス力強化を目的に欧米でITベンダーを買収、上期売上高はYoY約3倍。
・・・上期実績: Koneo、Techcare、LAN Associatesなど5社買収
- グローバル規模で大口顧客の新規獲得を進め、上期売上高はYoY倍増。
・・・上期実績: BMW、DB Schenker、NASAなど9社から複数年契約を受託。

オプト事業

薄膜TACフィルム

- VA-TAC、薄膜TACとも韓国・台湾の重要顧客でのポジション維持、向上。
- IPS用フィルムも薄膜の優位性を武器に受注獲得。

光学ユニット関連

- デジタル一眼用交換レンズの拡販に注力。下期はミラーレス対応を進める。

LED照明

- LED光源と導光板を組み合わせたショーケース用照明ユニットを製品化。量産を開始。

ヘルスケア事業

デジタル機器

- 「AeroDR」「Regius Σ」の新製品投入し品揃え拡充。下期より一層の本格拡販に注力。
- デジタル機器台数成長(YoY): Δ5%/1Q、+10%/2Q



KONICA MINOLTA

< 参 考 资 料 >

連結業績 上半期比較



KONICA MINOLTA

	11年度 1H	10年度 1H	YoY	[億円]
売上高	3,783	3,918	△ 135	
売上総利益	1,736	1,809	△ 73	
(売上総利益率)	45.9%	46.2%	-	
営業利益	156	226	△ 70	
(営業利益率)	4.1%	5.8%	-	
経常利益	116	179	△ 63	
税前利益	84	116	△ 32	
当期純利益	38	86	△ 49	
(当期純利益率)	1.0%	2.2%	-	
EPS [円]	7.08	16.29	-	
設備投資額	138	246	△ 109	
減価償却費	236	275	△ 38	
研究開発費	368	353	14	
FCF	160	126	34	
為替レート [円] USD	79.80	88.94	△ 9.14	
Euro	113.78	113.83	△ 0.05	

セグメント別売上高/営業利益 上半期比較

売上高	11年度 1H	10年度 1H	YoY	[億円]
情報機器	2,690	2,661	29	
オプト	634	692	△ 58	
ヘルスケア	347	449	△ 103	
その他事業	79	80	△ 0	
ホールディングス他	34	37	△ 3	
グループ計	3,783	3,918	△ 135	

営業利益	11年度 1H	10年度 1H	YoY
情報機器	153	196	△ 43
(営業利益率)	5.7%	7.4%	-
オプト	72	80	△ 8
(営業利益率)	11.4%	11.6%	-
ヘルスケア	△ 4	6	△ 10
(営業利益率)	-1.1%	1.3%	-
その他事業	12	11	1
ホールディングス他	△ 77	△ 67	△ 10
グループ計	156	226	△ 70
(営業利益率)	4.1%	5.8%	-

連結業績 四半期比較



KONICA MINOLTA

	11年度 2Q	10年度 2Q	YoY	11年度 1Q	QoQ [億円]
売上高	1,921	1,972	△ 51	1,862	59
売上総利益	900	925	△ 24	836	64
(売上総利益率)	46.9%	46.9%	-	44.9%	-
営業利益	123	128	△ 4	33	91
(営業利益率)	6.4%	6.5%	-	1.8%	-
経常利益	91	115	△ 24	26	65
税前利益	80	94	△ 14	4	77
当期純利益	39	51	△ 13	△ 1	40
(当期純利益率)	2.0%	2.6%	-	-0.1%	-
EPS [円]	7.28	9.70	-	△ 0.21	-
設備投資額	89	135	△ 47	49	40
減価償却費	119	136	△ 17	117	2
研究開発費	178	182	△ 5	190	△ 13
FCF	154	139	15	6	148
為替レート [円] USD	77.86	85.87	△ 8.01	81.74	△ 3.88
Euro	110.15	110.66	△ 0.51	117.40	△ 7.25

セグメント別売上高/営業利益 四半期比較



KONICA MINOLTA

売上高	11年度	10年度	YoY	11年度	QoQ	[億円]
	2Q	2Q		1Q		
情報機器	1,349	1,333	16	1,341	8	
オプト	322	340	△ 18	311	11	
ヘルスケア	191	239	△ 47	155	36	
その他事業	40	40	△ 1	40	0	
ホールディングス他	19	20	△ 1	15	3	
グループ計	1,921	1,972	△ 51	1,862	59	

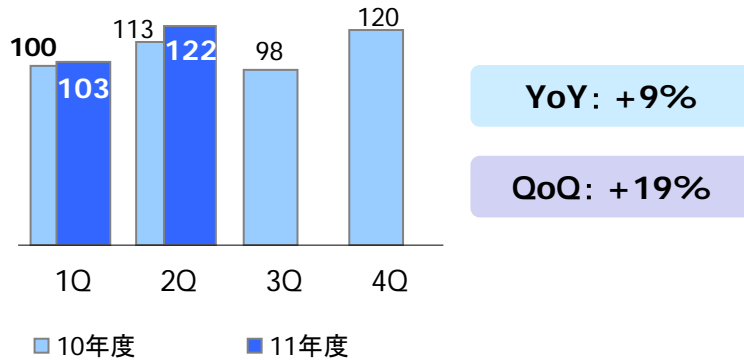
営業利益	11年度	10年度	YoY	11年度	QoQ
	2Q	2Q		1Q	
情報機器	117	119	△ 3	36	80
(営業利益率)	8.6%	9.0%	-	2.7%	-
オプト	38	29	9	34	4
(営業利益率)	11.8%	8.5%	-	10.9%	-
ヘルスケア	1	7	△ 5	△ 5	6
(営業利益率)	0.7%	2.8%	-	-3.3%	-
その他事業	7	6	1	5	2
ホールディングス他	△ 39	△ 34	△ 6	△ 37	△ 2
グループ計	123	128	△ 4	33	91
(営業利益率)	6.4%	6.5%	-	1.8%	-

情報機器事業 主要製品販売状況

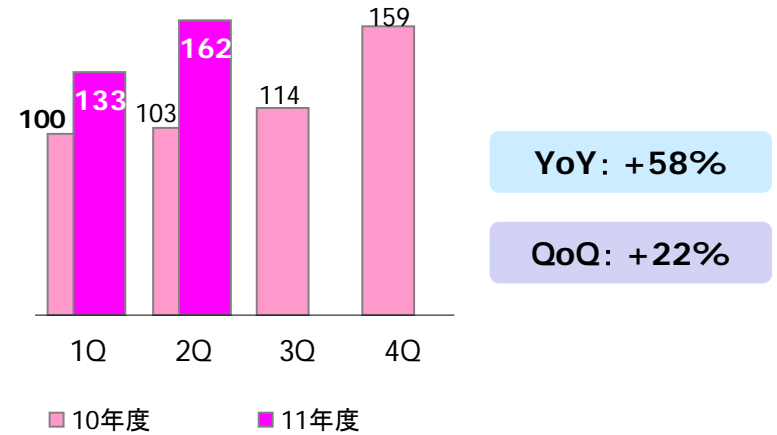


KONICA MINOLTA

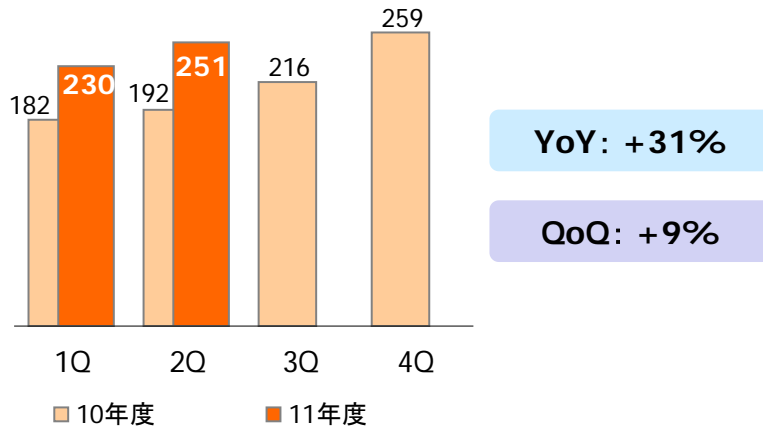
■ A3カラーMFP 販売台数*



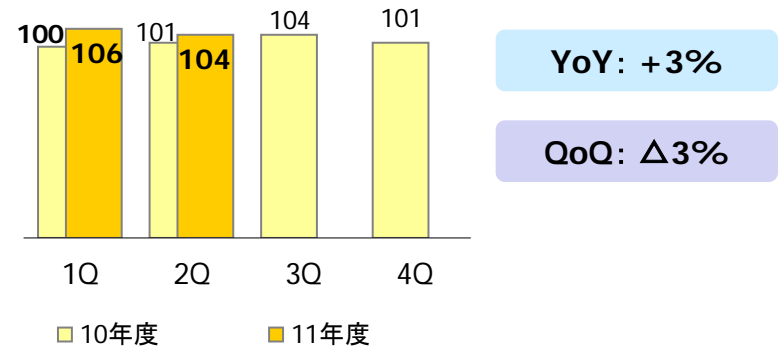
■ カラープロダクションプリント 販売台数*



■ プロダクションプリント売上高 [億円]



■ MFPノンハード売上* (為替影響排除後)

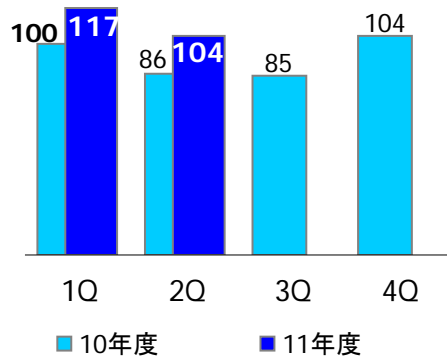


オプト事業 主要製品販売状況



KONICA MINOLTA

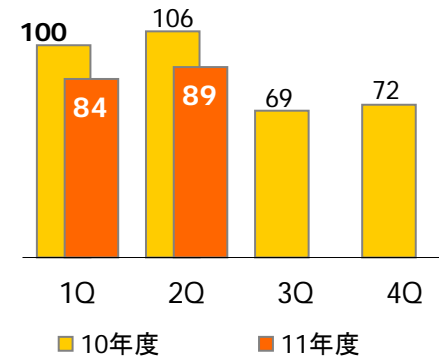
■ TACフィルム販売数量



YoY: +20%

QoQ: Δ11%

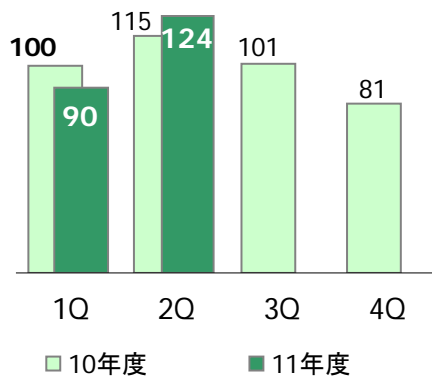
■ ピックアップレンズ販売数量



YoY: Δ16%

QoQ: +7%

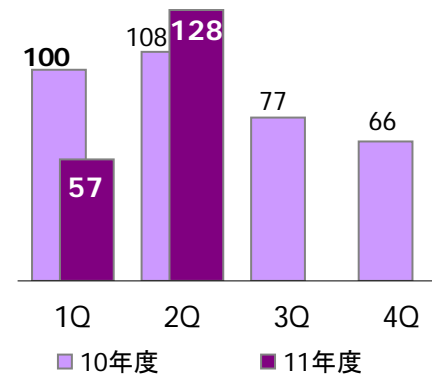
■ ガラスHD 基板販売数量



YoY: +8%

QoQ: +38%

■ レンズユニット/モジュール



YoY: +18%

QoQ: +124%

営業利益増減分析

上半期 前年同期比較 (11年度1H vs. 10年度1H)

	情報機器	オプト	その他	合計 [億円]
[要因]				
為替影響	△ 2	△ 11	△ 7	△ 19
価格変動	△ 48	△ 47	△ 3	△ 99
数量増減他	65	10	△ 19	56
コストダウン	△ 9	17	2	10
経費増減	△ 50	24	9	△ 17
[営業利益]				
増減額 (YoY)	△ 43	△ 8	△ 19	△ 70

四半期 前年同期比較 (11年度2Q vs. 10年度2Q)

	情報機器	オプト	その他	合計
[要因]				
為替影響	△ 2	△ 6	△ 3	△ 11
価格変動	△ 26	△ 25	△ 0	△ 52
数量増減他	33	15	△ 9	39
コストダウン	2	10	1	13
経費増減	△ 11	16	1	6
[営業利益]				
増減額 (YoY)	△ 3	9	△ 10	△ 4

販売管理費・営業外損益・特別損益



KONICA MINOLTA

				[億円]		
	11年度 1H	10年度 1H	YoY	11年度 2Q	10年度 2Q	YoY
販売管理費						
販売変動費	215	231	△ 16	110	126	△ 16
研究開発費	368	353	14	178	182	△ 5
人件費	591	574	18	289	280	9
その他	407	425	△ 19	201	209	△ 8
販売管理費 計	1,580	1,583	△ 3	777	797	△ 20
	<i>* 為替影響額: △ 31 億円(実質増減 +28 億円)</i>			<i>△ 15 億円(実質増減 △ 5 億円)</i>		
営業外収支						
金融収支	△ 5	△ 7	1	△ 4	△ 4	△ 1
為替差損益	△ 35	△ 33	△ 2	△ 28	△ 7	△ 21
その他	0	△ 7	7	△ 0	△ 2	2
営業外収支 計	△ 40	△ 47	7	△ 33	△ 13	△ 20
特別損益						
固定資産売却損益	△ 7	△ 8	1	△ 5	△ 6	1
投資有価証券および 関係会社株式評価・売却損益	△ 24	△ 16	△ 8	△ 6	△ 6	0
事業構造改善費用	0	△ 34	34	0	△ 10	10
その他	△ 1	△ 5	4	1	1	△ 1
特別損益 計	△ 32	△ 63	31	△ 10	△ 21	11

貸借対照表



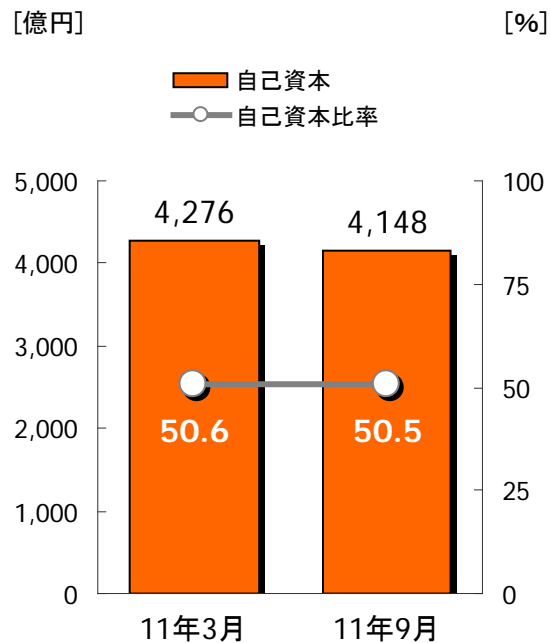
KONICA MINOLTA

	[億円]		
	11年9月	11年3月	増減
資産の部			
手元資金	1,832	1,751	81
売上債権	1,521	1,634	△ 113
棚卸資産	978	1,002	△ 25
その他	583	631	△ 49
流動資産 計	4,913	5,019	△ 106
有形固定資産	1,782	1,907	△ 125
無形固定資産	877	884	△ 7
投資その他	641	645	△ 4
固定資産 計	3,300	3,436	△ 136
資産 合計	8,213	8,455	△ 241
負債および純資産の部			
仕入債務	752	746	5
有利子負債	1,852	1,926	△ 74
その他負債	1,448	1,493	△ 45
負債 合計	4,052	4,165	△ 113
自己資本 (株主資本+その他包括利益累計額計)	4,148	4,276	△ 129
その他	14	13	0
純資産 合計	4,162	4,290	△ 128
負債・純資産 合計	8,213	8,455	△ 241

	[円]		
	11年9月	11年3月	増減
US\$	76.65	83.15	△ 6.50
Euro	104.11	117.57	△ 13.46

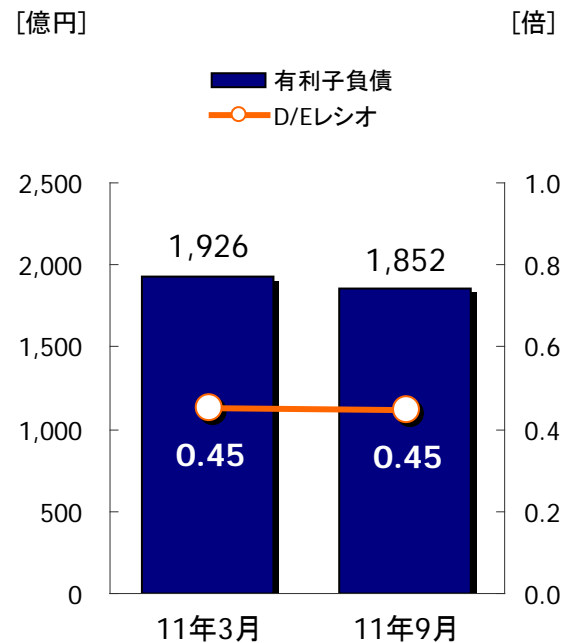
連結貸借対照表 主要指標

● 自己資本比率



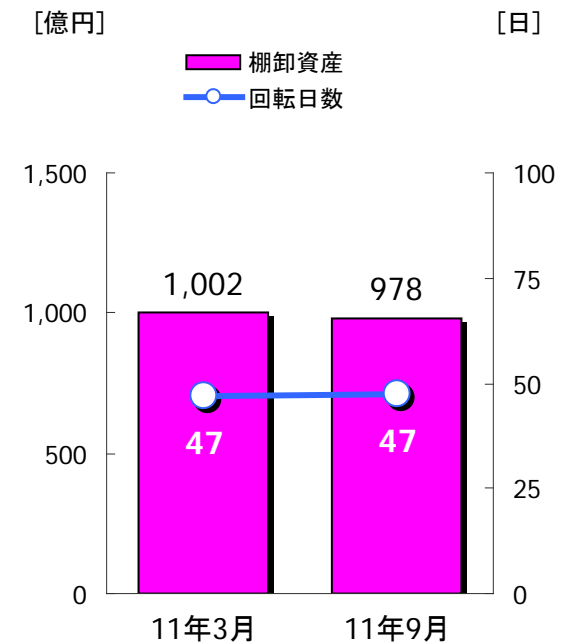
自己資本比率:
 $\text{自己資本} \div \text{期末総資産}$
 ※自己資本=期末株主資本+その他包括利益累計額合計

● 有利子負債残高・D/Eレシオ



D/Eレシオ:
 $\text{期末有利子負債} \div \text{自己資本}$
 ※自己資本=期末株主資本+その他包括利益累計額合計

● 棚卸資産・棚卸資産回転日数



棚卸資産回転日数:
 $\text{期末棚卸資産} \div (\text{売上} / \text{日})$

キャッシュ・フロー



KONICA MINOLTA

[億円]

	11年度 1H	10年度 1H	YoY	11年度 2Q	10年度 2Q	YoY
税金等調整前四半期純利益	84	116	△ 32	80	94	△ 14
減価償却費	236	275	△ 38	119	136	△ 17
法人税等の支払額	△ 11	△ 31	20	22	△ 17	39
運転資本増減他	72	△ 41	113	39	31	9
I. 営業活動によるキャッシュフロー	381	318	63	261	244	18
II. 投資活動によるキャッシュフロー	△ 222	△ 192	△ 29	△ 108	△ 105	△ 3
I.+ II. FCF	160	126	34	154	139	15
有利子負債の増減	△ 36	△ 31	△ 5	△ 64	△ 45	△ 19
配当金の支払額	△ 40	△ 40	△ 0	△ 1	△ 1	△ 0
その他	△ 8	△ 7	△ 1	△ 4	△ 4	△ 0
III. 財務活動によるキャッシュフロー	△ 84	△ 78	△ 6	△ 69	△ 50	△ 20